

大学基準協会の 相互評価結果

兵庫医科大学に対する相互評価結果

I 認定の可否

貴大学は 2003（平成 15）年度相互評価の結果、本協会の大学基準に適合していることを認定する。

II 相互評価結果の概要

[1] 総 評

1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学の建学の精神である「社会への奉仕」、「人間への深い愛」、「人間への幅の広い科学的理解」は、「大学案内」、「教育要項」、「学生ハンドブック」の最初に明示され、学生ならびに教職員に周知徹底されていることが理解できる。その一方、建学の精神をより具体化した理念・目標については、『大学基準協会相互評価報告書』記述や、「大学案内」の理事長・学長あいさつなどを読めば理解することはできるが、学生はこのような文書を通常よく眼にするのであろうか。シラバス等にも理念・目標を明示し、学生にも周知することが望まれる。貴大学の理念・目的は、学則では建学の精神に則って有為有能の医師を養成するとある。しかし有為有能な医師とはどのような医師かは明文化されていない。視学委員の勧告への対応として相互評価報告書に示された具体的な教育目標がそれにあたるのであろう。ただし、これら学部・大学院教育の理念・教育目標は医科大学として極めて妥当である反面、広範囲で焦点が絞りにくい感がある。

2 自己点検・評価の体制

原則として毎月 1 回定例で自己点検・評価委員会を開催し、そこでの協議内容は、すべて翌月の教授会に報告し、議題の内容によっては更に翌月の理事会にも諮っている。自己点検・評価に関わる重要な案件については、教授会の審議・承認を得て実施に移していることがうかがえる。ただ、外部検証を積極的に行っては来なかったことから、本協会の評価を受けることとなった。今回の評価が改善に結びつくことが期待される。

3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

単科の私立医科大学として、「建学の精神を礎とする良医の育成」を目的に 30 年前

に発足した貴大学が、教育の工夫改善を積み重ねながら順調に医師を社会に送り出していることは、点検・評価報告書等から覗えるところである。初期の統合的な学部教育課程が 30 年を経て幾分制度疲労の状態にあるところへ、最近のモデル・コア・カリキュラムに示された臨床重視の教育の指針の提示と、卒後 2 年間の研修医制度の法令による義務化がなされ、これらに対する大学側の対応の努力は並々ならぬものと察せられる。

ともすれば、講座を重視しがちの医学部の通弊にたいして、学部・大学院の教育を大学の教育理念に則って遂行するためには、学長のリーダーシップと教員の意識改革が常に必要であろう。この点、評価委員の中から、「報告書には学校法人兵庫医科大学の組織機構図が示されていないため、学長の権限が及ぶ範囲や大学における教育研究組織のしめる位置が明確でない。学則にも学長の権限が明確にされておらず、事務組織は教学組織から独立して理事長に直結しているため、学長の権限は相対的に弱いのではないか。」との懸念が表されたので付記しておく。

学生の修学環境の改善のために貴大学が種々工夫され、学生の自習個室、図書館・情報システムの改善が成されていることは大いに評価される。キャンパスから離れているが、大きな敷地の運動場を所有していることも評価できる。教員の研究活動も活発であり、その成果の一つが「先端医学研究所」創設の発端となった。私学経営環境の厳しい中であるが、この研究所が永続的に活動を続けることは貴大学が更に発展するために重要なことであろう。また、将来的に卒業生が貴大学の研究活動の推進役にもなるよう大学院教育のより一層の充実も望まれる。

なお、今日大学に求められるアカウンタビリティを十分果たすためにも、積極的な財政公開に取り組むことが望まれる。

[2] 勧告・助言

総評に提示した事項に関連して、特に改善を要する点や特筆すべき点を以下に列挙する。

一、勧告

1 学生生活への配慮について

- 1) セクシュアル・ハラスメント防止に関する規程を整備されたい。

2 財政について

- 1) 財政公開については、「兵庫医科大学広報」を通じて消費収支計算書の公開が行われているほか、消費収支計算書の収入支出および主要収入支出項目の推移をグラフにして公表しているが、教職員・学生・父母および卒業生をはじめとした関係者に対し、財務三表すべてを含めた財政公開を広く積極的に実施されたい。

二、助言

1 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標について

①長所の指摘に関わるもの

なし

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 建学の精神をより具体化した理念・目標については、「本協会相互評価報告書」のなかには理念・目的等として述べられているが、シラバス等にも理念・目標を明示するなど、周知の努力が望まれる。

2 教育研究組織について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 臨床医学の教育研究診療組織においては、私学であるメリットを活かし、内科学の充実、総合臨床医学やリハビリテーション学の設置など、重要な領域に多くの教員を配置していることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 専門分野の重複している外科系の講座制の再編が望まれる。

3 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

(1) 教育研究の内容等

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 統合カリキュラム、短期集中型講義、チュートリアル教育、66科目のレベルアップ選択科目、臨床解剖実習などカリキュラムの改革に意欲的に取り組んでいる。特に、2003(平成15)年度より4年次にも「医の倫理2」により、チュートリアル教育を始めていることは評価できる。
- 2) 教養的教育に関しては、社会福祉学、心理学、行動学といった科目に専任教員を配置し、倫理教育にも十分な時間を割いており、将来、医療に従事する者としての基礎的素養を養うことができるよう、配慮されている。一方、単位互換により他大学の開設科目を学ぶことにより、単科の医科大学のため教養科目の選択の幅が狭くなること、多様な学生との接触ができないこと等の単科大学の短所を幾分でも改善しようとしていることも評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 入試で理科は一科目選択であるため、入学後の基礎系科目の教育に支障を来している。2004(平成16)年度からの入試で理科2科目受験によって改善すると思われるが、それでも高校で履修していない科目に対応するための選択必修科目は必要である。この点について、理系選択科目において、高校で履修していない科目を選択履修させるなどの努力が見られるが、引き

続き改善を期待したい。

- 2) 英語はますます重要性が増しているが、授業数を半減したことでの影響が心配される。レベルアップ選択科目や上級学年においても英語教育の機会を設けているが、選択授業では限定的なので、改善の努力が望まれる。
- 3) クリニカル・クラークシップにおける診療参加が2週間科目で70%、1週間科目では40%にとどまっており、改善が期待される。
- 4) 臨床実習に関する学生の満足度が30%と低く、学生は国試対策講義の増加を望んでいる。臨床実習の内容の改善が望まれる。

(2) 教育方法とその改善

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 2学年次末に基礎科目終了試験を実施していることは評価できる。
- 2) 学生が選ぶベスト・ティーチャー賞の導入、シラバス(教育要領)の充実、「臨床実習必携」など学生の学習の指標になる書籍の充実、FD活動のための教育活性化経費の予算化、など教育方法改善に向けた努力は評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 基礎医学課程における教育が、医学教育全体からみて連携がよくないことが書類の記載からうかがえるので、改善の努力が期待される。
- 2) 1997(平成9)～2001(同13)年度における留年者数は各年次とも10名弱と多い。指導体制、フォローアップなどの充実に努めておられるが、引き続き一層の改善の努力が期待される。

4 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

(1) 教育・研究指導の内容等

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 大学院特別講義、特に国外研究者によるそれが年々充実していることは評価できる。
- 2) 最初の2年間に30単位以上の授業を受けることが義務付けられていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 教育・研究指導方法の改善

①長所の指摘に関わるもの

なし

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 研究指導が講座教授に委ねられているため、大学としてその内容の評価ができていないので、改善の努力が望まれる。

(3) 国内外における教育・研究交流

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 国内大学からの特別研究生の受け入れ、外国大学への特別研究生の派遣を行っていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 姉妹提携が現状では活発とはいいがたいので、改善が望まれる。

(4) 学位授与・課程修了の認定

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 課程修了の認定、論文博士の認定基準は明確に示されていることは評価できる。
- 2) 毎年20名前後の学位授与の実績があり、早期学位授与制度が設けられていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 学位審査において、副査の選出に主査の意向が強く反映することは審査の透明性・客観性に関して適切とはいいがたい。改善の努力はみられるが、引き続き一層の改善を期待したい。
- 2) 基準修了年限以内に学位を取得している者の割合が35.7%と低いので、改善が望まれる。
- 3) 早期修了の基準は明確に示されているものの、インパクト・ファクターの過度の重視というのは大学自身による点検と評価にも記載されており問題があるので、改善の努力に期待したい。

5 学生の受け入れについて

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 面接試験にあたって事前に専門家による面接技法トレーニングを実施していることは評価できる。
- 2) 入学試験問題の適性度を専門の第三者機関にチェックしてもらっていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 2001（平成13）年度の退学者数が多い。再入学試験が安易に行われていないか検証が必要である。再入学は、低学年を対象に、勉強意欲が高い者にチャンスを与えるために行っているとのことであるが、再入学者の多くが成績の向上が見られないとの自己点検・結果もある。教授会において定期

的に再入学制度の検証を行っているとのことであるが、引き続きこの制度の点検や見直しが望まれる。

- 2) 大学院入試では語学試験での不合格者が多い。英語教育の改善に引き続き一層の努力が期待される。
- 3) 社会医学系、基礎医学系大学院への収容定員充足率が低いので、改善の努力が望まれる。

6 教育研究のための人的体制について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 医学部の専任教員数は全国平均からみて高い水準にあり評価できる。
- 2) 教員選考においては公募制をとり、選考過程も選考委員に教授だけでなく助教授、講師も加わって透明性が高いことは評価できる。
- 3) 全教員に教育活動実施記録を提出させていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 教員の年齢層が高い方に偏っているので、改善の努力が期待される。
- 2) 医師である院生はリサーチ・アシスタントになる資格がないが、改善が期待される。

7 大学院における研究活動と研究体制の整備について

(1) 研究活動

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 教授以下7名の専任の教員をおく先端医学研究所を設置・維持し、国際シンポジウムの開催、研究所年報の発行などを行っていることは、単科私立医科大学の規模を考えると大いに評価できる。
- 2) 兵庫医科大学教員学術賞は、研究を振興する意味で評価できる。
- 3) ハイテク・リサーチ・センター整備事業や学術フロンティア推進事業に次々と選定されている点は評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 先端医学研究所は、1部門以外の部門長は講座教授の兼任であるため、迅速な意志決定ができないことや、先端医学研究所での各プロジェクト終了後の各部門の取り扱いに関する取り決めがないことなど運営に問題点があるので、改善に努められたい。

(2) 研究体制の整備

①長所の指摘に関わるもの

なし

②問題点の指摘に関わるもの

なし

8 施設・設備等について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 30のチュートリアル室や学生の自習室が確保されている。特に6年次の個人学習用自習室が24時間開放されていることは評価できる。
- 2) 学生数から見て、学生が利用可能なコンピュータが150台整備されている点は評価できる。
- 3) 全館禁煙が原則で、禁煙教育にも積極的姿勢が窺える点は評価できる。
- 4) 共同利用研究施設が機能し、効率的な大型機器の管理・利用体制が整えられていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 院生用の研究スペースは十分確保されているとは言いかたく、改善が望まれる。
- 2) 動物舎は老朽化している。そのための対策が取られているが、引き続き改善の努力が期待される。

9 図書館及び図書等の資料、学術情報について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 洋雑誌が日本医学図書館協会平均の1.5倍と充実していることは評価できる。
- 2) 学部学生数に対する閲覧座席数の比率が20%となっていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 洋雑誌の値上がり分を補充するために単行本の予算が削られている。そのため単行本の蔵書が日本医学図書館協会平均より少なく、その差は年々拡大する傾向にある。ただ、2003(平成15)年度予算において単行書予算480万円余り(前年度220万円)が認められ、また単行書の充実が5ヵ年にわたる事業計画として別途認められ、2003年度予算として1000万円が計上され、順次購入のうえ配架されているとのことであり、引き続きの改善の努力が期待される。
- 2) 図書館として独立した建物がない上、延べ面積が日本医学図書館協会平均の55%と少ない。図書館面積が狭い点に関しては、集密書架などの利用でカバーしておられるが、大学自身の点検・評価にあるようにゆとりの面積の確保が必要であり、改善の努力が期待される。

10 社会貢献について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 大学主催の市民公開講座が行われている。また市主催の市民講座や、県主催の公開講座にも講師を派遣するなど社会貢献が行われていることは評価できる。
- 2) インターロイキン18の発見、炎症性腸疾患の遺伝子研究など研究成果を社会に還元していることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

1 1 学生生活への配慮について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 学費の支払い困難になった学生を救済するための大学後援会援助金制度があることは評価できる。
- 2) 基礎系大学院の授業料免除をしていることは、基礎医学の振興のために評価できる。
- 3) 精神衛生関係のスタッフが多く心理的、精神的相談に個別に対応しやすいことは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

1 2 管理運営について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 教授会、理事会の機能分担がそれぞれ教学、経営・財政と明確であることは評価できる。
- 2) 選考委員会が複数の学長候補者を選考し、候補者が教授会で抱負を述べるなど、学長の選任手続きが適切に行われていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

1 3 財政について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 外部資金の導入を積極的に行っており、1999（平成11）年度から2001（平成13）年度にかけて外部資金の受入金額は増額傾向にある。特に奨学寄付金の獲得金額が増加していることは評価できる。
- 2) 2000（平成12）年3月から2001（平成13）年9月にかけて、大学機能の改善と施設の整備および拡充のための改修を行うなど、医学の教育研究条件整備に積極性がみられる点は評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 貸借対照表関係比率のうち、自己資金構成比率、流動比率及び総負債比率をはじめとした10項目が医学系私立単科大学の平均と比して良好な状況でなく、財政状態については改善の努力が望まれる。個別の課題としては、ア) 消費収支計算書関係比率のうち、大学ベースの教育研究経費比率が1998（平成10）年度から2001（平成13）年度まで医学系私立単科大学の平均と比して経年的に低く、より積極的な教育研究に対する取り組みが望まれること、イ) 2001年度決算において、要積立額に対する積立額が227億円（54.8%）不足していることについては、施設設備等の投資による減価償却累計額（244億円）に対する引当資産額の不足が主たる要因であると考えられるが、今後は積立不足の解消にむけた努力が望まれること、の2項目が上げられる。

1.4 事務組織について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 学務部に54名の職員がおり、教員・学生数からみて数的には充実している。とりわけ、教室系の教育研究補助職員の他に学務部に研究技術第1課・第2課として17名の職員をおいていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

- 1) 調査・立案・企画し、教授会や各種委員会に資料提供・助言できる状況がないと自己点検・評価されている。引き続き改善の努力が望まれる。

1.5 自己点検・評価等について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 自己点検・評価委員会は毎月定期的で開催されており、管理運営、教育、研究、診療の4つの下部組織を持っていることは評価できる。また、委員会での検討事項が教授会で報告されていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

1.6 附属病院とその附属施設について

①長所の指摘に関わるもの

- 1) 地域の医師が病院の診療、行事に参加できる登録医制度があることは評価できる。
- 2) 高度救急救命センター、災害拠点病院、エイズ拠点病院などの指定を受け、地域の医療の中心的役割を果たしていることは評価できる。
- 3) 救急隊員、救急救命士の研修、卒前卒後教育に取り組んでいることは評価

で得きる。

- 4) 大学病院としては珍しい老人性痴呆疾患センターを併設していることは評価できる。
- 5) 市民健康講座、公開医療教室などの患者サービスを行っていることは評価できる。
- 6) 篠山病院では老人保健施設を併設し、学生の介護教育が行われていることは評価できる。

②問題点の指摘に関わるもの

なし

以 上

兵庫医科大学に対する参考意見

相互評価の過程のなかで、分科会の主査報告書に、以下のような意見も含まれていた。参考までに列記する。

- 1 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標について
 - ・学部・大学院教育の理念・教育目標は医科大学として極めて妥当である反面、広範囲で焦点が絞りにくい感がある。
- 2 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について
 - ・教員の教育に対する意識がやや古いように感じられる。また、シラバスは標準的な記述が必ずしもされていない（GIO、SBOなど）。ただし、上記のような問題点は大学側としても十分に認識しておられることが「点検・評価」の文書からうかがわれ、教務委員会を中心とした緊密な連絡調整、総合試験の利用、共通テストの利用など改善の方向も示されているので、改善に期待したい。
 - ・学生による授業評価に問題はあるものの、やはり教育改善の材料のひとつとはなりうるものである。授業評価の分析を教育の改善に利用する道を見出していきたい。
- 3 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について
 - ・大学院の標準修了年限内の修了が少ないので、指導体制等の検討が必要であろう。
- 4 学生の受け入れについて
 - ・理念は学部では明確であるが、大学院研究科では明確とはいえない。一方、理念にそった入学者選抜方法については総論的には明確に述べられるものの、具体的方法については全国的に明確な回答がないという状況と貴大学も同様と思われる。
 - ・6年一貫の現在のカリキュラムを考えると2年次ないし3年次の編入学制度の導入は困難であるとしているが、編入学は多様な人材を得る手段として一定の意味を持つので、継続的に検討することが期待される。
- 5 教育研究のための人的体制について
 - ・教員の選考にあたって研究業績が重視され、教育上の評価が不十分である。
 - ・大学院に専任教員がいない。わが国全般の問題であり、貴大学も例外ではないが、改善が期待される。
 - ・教員の教育時間の負担の格差があるようである。
- 6 研究活動と研究体制の整備について
 - ・先端医学研究所を設置し、研究所教員と学部・研究科教員が共同して研究プロジェクトに取り組んでいることは評価できる。ただ、同研究所の理念がまだ学内で定着していないこと、先端医学研究所としての独立した建物がなく、基礎棟の3つの階に分散され、4つの部門がそれぞれ独自に運営されていること、予算の大

半が外部からの研究補助金で賄われており、残りの負担は大学からの補助金、各講座からの研究費など出所がまちまちであること、などについては改善が期待される。

7 施設・設備等について

- ・情報機器の導入は年次計画により積極的に推進しているが、ソフトとしては、他大学医学部と同様に、教育用マルチメディア教材は入手困難な状況である。

8 図書館及び図書等の資料、学術情報について

- ・閲覧時間が平日は夜9時までと利用者の便宜を図っていることは評価できる。
- ・図書館の1人あたりの年間利用回数は多いが、図書の館外貸し出し利用が少ないのは、学生が閲覧室を自習の場として利用しているのではないか。
- ・データベース検索を図書館員が行っていると記載してあるが（平成13年）、各教員・院生らがPCからオンライン検索ができるようにすべきである。この点は、実地視察において、現在は図書館員が検索を代行しているのはDIALOGなど特殊なもののみで、『医学中央雑誌』やMEDLINEは貴大学のインターネット網を通して図書館だけではなく各教室からも図書館の開館時間に拘わらず自由に検索できるようになっていることが確認された。

9 社会貢献について

- ・他大学や研究所と協力してメディカルサイエンス研究機構を立ち上げる努力をしている。

10 学生生活への配慮について

- ・学生が大学病院内でボランティア活動を行うボランティア活動クラブがある。
- ・優れた学位論文を顕彰する院生学術賞を設けている。

11 管理運営について

- ・1・2次救急体制の不備、大学院制度など医療環境を取り巻く社会変化に対応し切れていない面も窺える
- ・教授会、理事会の協調関係が円滑なあまり、社会の変革に対する対応が遅れた。
- ・多くの私立医科大学が抱える問題であるが、大学院組織が、学部組織から独立していない。

12 財政について

- ・財政公開にあたって、財務諸表は小科目までを公開することが望ましい。
- ・広く社会に公開するという観点から、ホームページを利用した財政公開を検討することが望まれる。
- ・監査システムとして内部監査による業務監査の導入を検討されれば、ガバナンス機能はより一層高まると思われる。

13 附属病院とその附属施設について

- ・地域医師会との関連から1・2次救急を実施していないのは問題である。

- ・放射線関連施設が異なる建物に分散し、厨房施設が老朽化するなどの問題を抱えており、今後病院施設の改築、改修を要する。
- ・外来オーダーリングの導入が遅れているので、改善が望まれる。
- ・卒後研修のローテートする科が限られており、本来の初期研修が行われていない。この点は 2004（平成 16）年度の卒後臨床研修の必修化で改善が期待されるが、一層の努力が望まれる。

以 上

兵庫医科大学に対する評価一覧（参考）

	大学		財政
	達成度評定	水準評定	水準評定
教育研究組織	A		
大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備	教育研究の内容等	B	2
	教育方法とその改善	C	3
	国内外における教育研究交流	※	
	通信制大学等		
大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備	教育・研究指導の内容等	B	4
	教育・研究指導方法の改善	B	4
	国内外における教育研究交流	B	
	学位授与・課程修了の認定	C	4
	通信制大学院		
大学・学部等の学生の受け入れ	B	3	
大学院研究科の学生の受け入れ	B	3	
大学・学部等の教育研究のための人的体制	B	2	
大学院研究科の教育・研究のための人的体制	B		
大学院における研究活動と研究体制の整備	研究活動	B	2
	研究体制の整備		2
大学・学部等の施設・設備等	B	3	
大学院研究科の施設・設備及び情報インフラ	B		
図書館及び図書等の資料、学術情報	B	3	
社会貢献	A		
学生生活への配慮	A	1	
管理運営	A	2	
財政公開			3
財務比率			2
事務組織	B		
自己点検・評価	B	2	

①上記各項目の達成度および水準の評定は、次の分科会での評定をもとに相互評価委員会で決定した評定を示している（大学＝大学評価分科会第10期）。達成度評定にあたっては、Bを標準とし、達成度が高い場合をA、低い場合をCとする。水準評定にあたっては、3を標準とし、水準が高い場合を1、低い場合を5とする。具体的には、相互評価結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。

②財政の項目の水準評定は、大学財政評価分科会での評定をもとに判定委員会で決定した評定を示している。その評定にあたっては、2を標準に、それより優れていれば1、劣っていれば3を付している。具体的には、相互評価結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。

相互評価結果を受けて

平成 16 年 3 月、大学基準協会から相互評価の結果を受理した。大学として、この第三者評価結果を真摯に受け止め、自己点検・評価委員会が中心となって今後の対応について協議している。

まず、財政の公開について「教職員・学生・父母および卒業生をはじめとした関係者に対し、財務三表すべてを含めた財政公開を広く積極的に実施されたい」との指導については、平成 16 年 8 月発行の大学広報第 177 号にて財務三表を公開するとともに、その内容を大学のホームページにも掲載することにした。また、勧告で指摘された「セクシュアル・ハラスメント防止に関する規程の整備」については、すでに規程を制定し、改善に努めている。

問題点の指摘に関する大学基準協会からの助言の内容は「理念・目標」「教育研究組織」「学部の教育研究の内容・方法と条件整備」等、11 項目と多岐にわたっているため、管理運営・教育・研究・診療の 4 部会にて今後の対応を検討している。更に、学長の指導下に自己点検・評価委員会の各部会長を中心にタスクフォースを選任し、改善・改革すべき問題点を点検・評価報告書より抽出し、戦略的および戦術的な問題解決策を提起すべく鋭意努力をしている。なお、自己点検・評価委員会において解決できない指摘事項については、理事会も含めて大学全体が一丸となって取り組んでいく予定である。

これら一連の作業は平成 19 年 7 月までに大学基準協会へ「改善報告書」としてとりまとめて提出することになっている。また、平成 23 年 3 月に認定期間が満了するため、次回の相互評価の認定を受けるべく、更に本学の改善・改革を着実に進めていく所存である。